

## 「4つの心」と「お互い様」

### 1. 新聞コラムより

右掲は、6月18日(木)の読売新聞夕刊「よみうり寸評」です。河井議員夫妻の買収事件が報じられて逮捕間近にタイミングよく掲載された記事です。記事の骨子は「中国史家、貝塚茂樹の解説書によると同情心、羞恥心、尊敬心、是非の分別心と考えていいらしい」として、これらを自覚しないために悪を行うようになるという点から夫妻の羞恥心を問うています。「なるほど、羞恥心か」と頷きました。

早速、字源を調べてみると「羞」は「羊+丑(手をちぢめた形)」で、羊の肉を手で細く引きしめるの意を表す。引きしぼる、細くちぢむの意を含む 気分が縮こまるほど恥じ入って、肩身が狭い思いに駆り立てられるとありました。また、「恥」は会意文字です(耳+心)。「耳」の象形と「心臓」の象形から、はずかしくて耳を赤くする事を意味し、そこから、「はじる」、「はじ」を意味する「恥」という漢字が成り立ちましたとありました。また、「羞恥心」は恥ずかしく感じる気持ちとありました。

つまり、「気分が縮こまるほど恥じ入って、肩身が狭い思いに駆り立てられ」と「はずかしくて耳を赤くする」が合わさった心が羞恥心という事なのです。仮に、裸を見られたというのは「恥」であり「はずかしくて耳を赤くする」が良いのですが、裸を見せるとなると「気分が縮こまるほど恥じ入って、肩身が狭い思いに駆り立てられ」が加わり「羞恥」になるのです。

この意味で考えると河井夫妻には「羞恥心」があると言えるのです。なぜなら、身を隠してしまい、積極的に弁明しようせず「恥」になってはいけないという思いがあったからです。つまり、自分自身に「買収」の思いがあったので、堂々とはできずに隠れたのです。仮に、別の方なら、のらりくらりと批判をかわして「羞恥心」がない状態で振舞っているのです。

#### 「よみうり寸評」6月18日夕刊より

善に通じる四つの心を説いた孟子の教えがある。中国史家、貝塚茂樹の解説書によると同情心、羞恥心、尊敬心、是非の分別心と考えていいらしい◆いずれの心も人に本来備わっているが、(自覚しないために、悪をおこなうようになる)という知られた戒めを、あらためてかみしめている◆昨夏の参院選をめぐる疑惑にまみれた夫妻ゆえである。孟子のいう二つ目の心を顧みて、処し方を考えてほしいと小欄に書いてから3か月余り、前法相の河井克行衆院議員と妻の案里参院議員に対し、検察当局が強制捜査に入る◆広島県の地元議員ら約100人に計約2500万円を渡した公職選挙法違反、買収の疑いをもたれている夫妻は、進退窮まったのだろうか。自民党を離党したが、疑惑への説明責任には背を向け続ける。羞恥心に加え、分別心も失っていたのだろうか。司直による全容説明が待たれよう◆疑惑と言えば、前経産相の秘書が有権者に香典を配った問題も尾を引く。四つの心を見つめてほしい政治家が、後を絶たない。

### 2. 仮面心理

今一度、「よみうり寸評」に戻ると「同情心、羞恥心と、尊敬心、分別心」が「善」につながるとあります。例えば、最近、スポーツ界では高校生への配慮が数多く打ち出されています。何せ、コロナ危機で全国大会を失った世代なので、彼らの心の「空白」を埋めてあげる必要があるのです。よく知られている例では、プロ野球選手会が1億円寄付、阪神タイガースが甲子園の砂プレゼントなど先輩から後輩への思いやりが出ています。すばらしい事だと思います。これらは、高校生への「同情心」から出た行為なのです。高校3年生という一度切りの思い出に何か役に立ちたいという願いから生まれたのです。

また、凶々しさという点では「羞恥心」を失った大人たちが多くなっています。卑近な例では、赤信号を守りなさいと子孫に言い聞かせますが、それを守れない親や祖父母がいます。これらの方が自転車に乗って歩行者通りの商店街を忠告を無視して走り、歩行者にベルを鳴らして我が物顔でいるのです。自分の姿を見て恥ずかしくないのかと思います。

この流れで見ると「尊敬心」や「分別心」が怪しくなって来ます。「尊敬心」ではネットなどで中傷することで被害者が自殺したりしています。ネットという仮面を被ったら何をしても良いと言わんばかりの表現をしています。ネットで話題になる方も「人間」だと尊敬する事が重要だと思うが、かけられない感じです。そして、「分別心」が働かずネットの仮面を被って中傷するコメントを書いて炎上という騒ぎに持ち込もうとしているのです。ネット社会独特の課題になっています。つまり、仮面を被ることはバレなければOKだと言う考え方です。「クルマは左、人は右」という基本ルールも多くの人は左側を歩く習慣になっており、また、交差する際は相手の後ろ側という基本を忘れたかのように歩行者の直前を猛スピードで横切る自転車が多くなっているのです。

### 3. 「4つの布施」

右掲は禅宗の教えにある「4つの布施」です。この4つを実践すれば、うまく行くというのです。例えば、ボランティア活動やクラウドファンディングなどの活動が多くなっていますので、善い行ないを身に着けた方が多くなっていますが、反面、前項のように「仮面心理」で他人を傷つける方もいるのです。その両極端が目立つようになっているのです。

- 「4つの布施」**
- ・布施: 他人に為にすること
  - ・愛語: 相手を思ってかける言葉
  - ・利行: 他人の利益の為にすること
  - ・同事: 同じ立場、行動をすること

禅宗では「一日の真似は一日の真似、三日の真似は三日の真似。一生真似れば本物だ。」と説いて、まずは善い手本を真似ることから始めよと教えているのです。始めないと習慣化しないのです。右掲は出典は不明だそうですが、よく知られた「訓」です。これも「心」に思ったことを「行動」に移さないと始まらないとしています。そして、習慣化すると他人の見方が変わり「人格」(評判)が変わるのです。その評判で運命が変わって行くという教えです。

心が変われば、行動が変わる  
行動が変われば、習慣が変わる  
習慣が変われば、人格が変わる  
人格が変われば、天命が変わる

「4つの布施」は誰もが「そうだ」と頷くものですが、それを実践するととなると難しい方が多いのです。例えば、「利他の精神」とシンプルに表現する場合がありますが、基本は自己中心から他人を思うことに変化させることが大切なのです。「情けは人の為ならず」とも言いますが、他人がよくなり、それが回り回って自分にも良い結果となって返ってくるのですが、西洋文化が浸透して「コスパ」(費用対効果)という言葉が横行して目先の利益を追求する文化になりつつありののです。この矛盾した現実があるのです。

この原因は「心のゆとり」が無くなってきている事にあるのではないかと思います。歩行者の直前を猛スピードで横切る方は、目的地に早く行く事だけしか見えていないのです。直前を猛スピードで横切ったら歩行者をビックリさせるという気遣いが出来なくなっているのです。歩行者がどんな人かも気遣わないのです。老人を驚かせても怒らないだろうと思っている節も見えます。その歩行者が少し早く歩くと接触や事故につながるというリスクも考えない自己中心になっているのです。それが瞬間的であっても繰り返すと「本物」の自分になってしまう事を忘れてしまっているのです。

### 4. 「お互い様」の精神

右掲は天台宗のHPにあった「一隅を照らす」を実践する3本柱です。私は自分なりに「感謝・奉仕・お互い様」と置き換えて実践しています。「感謝と奉仕」は当たり前な感じがしますが、意外に難しいのは「お互い様」という心根です。地域社会で生活する訳ですから、いろんな方の力をもらっているのですが、例えば、道路の掃除も誰かが行わねば始まらないのです。タバコの吸い殻やコンビニの袋をポイ捨てする人がいるのです。「誰かがやらねばならない事は進んでやれ！」と教わっていますが、最近ではコロナ感染のリスクもあるので通りすがりに素手で拾う事は難しいのです。「一隅とは、今、あなたがいる、その場所」との事ですが、難しいケースがあるのです。

- 「一隅を照らす」(実践3本柱)**
- 生命: あらゆる命を大切にしよう
  - 奉仕: 皆の為に行動しよう
  - 共生: 自然の恵みに感謝しよう

しかし、マクロには「自分の周囲に感謝と奉仕を実践すること」とであり、その実践が「お互い様」という精神で行う事なのです。「感謝」と言っても集団生活ですから人の好き嫌いが発生しますので、そういう個人的な感情を抑えて全体の為になることに「奉仕」する事が大切なのです。感情を乗り越えるには「お互い様」の精神がポイントになります。相手を全否定するのではなく、少し間をおいて、よい点を見つけ出して感情を和らげることが重要なのです。心の中で「お互い様」と叫びながら、相手を受容する事で「よい点」も見出せるようになるのです。本当に「お互い様」という昔からの言葉が重要なのです。心の中で呪文のように唱えたいです。